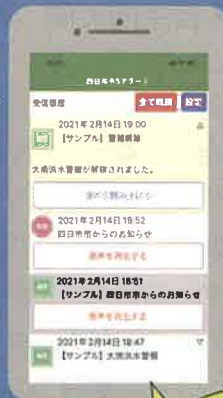




四日市市 S アラート

市の防災行政無線（固定系）の
放送内容がスマートフォンに直接届く！
インターネットに繋がる場所であれば
全国どこにいても登録地区の情報が届きます！
※端末の位置情報は取得しません。



音声でも
文字でも
確認できる！

アプリを
ダウンロード！

Apple 製品の場合



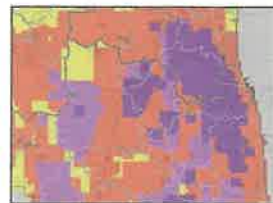
Android 製品の場合



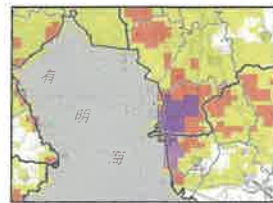
※Apple、Apple ロゴ、iPhone、および iPad は米国その他の国で登録された Apple Inc. の商標です。App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
※Android、Google Play、Google Play ロゴは Google LLC の商標または商標登録です。

キキクル

大雨警報・洪水警報の危険度分布



土砂キキクル
(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)



浸水キキクル
(大雨警報(浸水害)の危険度分布)



洪水キキクル
(洪水警報の危険度分布)



キキクル（危険度分布）ってなに？

キキクル（危険度分布）は、警報が発表されたときや、強い雨が降ってきたときに、どこで土砂災害や浸水害、洪水災害の危険度が高まっているかを知ることができる、命を守るための情報です。



この雨大丈夫？そんな時は
気象庁ホームページで確認

キキクル

検索



つながる防災隊

No.17

令和3年 8 月 20 日 発行

発行人：四日市市地区防災組織連絡協議会

会長 里中 俊雄

目次

1. 協議会活動の報告1P
2. 各地区での取り組み2P
3. 防災情報4P

今回は、各地区の防災への取り組みを中心にご紹介します。

四日市市地区防災組織連絡協議会 総会について

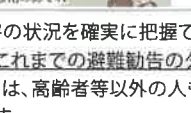
四日市市地区防災組織連絡協議会 会長 里中 俊雄

令和3年度の四日市市地区防災組織連絡協議会総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面表決により総会の議決を得ました。

今年度も、避難所開設訓練等の訓練強化や各地域での防災啓発活動の強化を図り、地域防災力の強化を目指していきます。

災害時の

避難情報が変わりました！

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	 災害発生 又は切迫 緊急安全確保※1 きんきゅうあんぜんかくほ	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
~~~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~~~		
4	 災害の おそれ高い <b>避難指示※2</b> ひなんしじ	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	 災害の おそれあり <b>高齢者等避難※3</b> こうれいしゃとうひなん	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	 気象状況悪化 大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	 今後気象状況 悪化のおそれ 早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。

※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。

※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

## 防災活動は年中無休 待ったなし！！ 富田地区自主防災隊 隊長 渡部 悟

富田地区では、近年の異常気象による集中豪雨や台風時の高潮により甚大な浸水被害の危険性が高まっています。また、南海トラフ巨大地震による大津波により、ほぼ全域で5m超の浸水が予想されています。一方で、未だ新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、自主防災隊の活動も苦悩が続いています。

高齢者世帯が増加する中、迅速な避難が課題ですが、避難を完了した世帯は、玄関先に白いタオルをぶら下げることをルール化し、防災訓練で実践しています。この際に力を発揮するのが、昨年度までに整備した簡易無線機です。本部と隊員相互が避難情報を確認しながらスピーディな対応ができるよう、繰り返し、使い方の習熟訓練を行っています。

コロナ禍における避難所運営は難しい課題ですが、これまでの知見を基に逃げずに正しく恐れながら、実践的な運営方法について考え、備えていきたいと思っています。



## ◇小学校1年生の防災学習と水の贈呈式 川島地区防災協議会 田中 英克

川島地区防災協議会では地域防災活動取組の一環として、川島小学校・PTA・川島地区防災協議会の3者間で「毎年の水の贈呈とPTA備蓄食料の一時避難所での借用に関する協定」を結んでおり、この協定に基づき、小学校1年生に対する災害時の飲料水の贈呈（飲料用PETボトル）と防災学習を行っています。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、残念ながら防災学習は行うことができませんでしたが、飲料水の贈呈については予定通りに行うことができました。

一昨年の防災学習では、一年生85名を対象にクイズ形式で「もし、大きな地震が起こったらどうなる？」という内容で、「いつもはできるのに大きな地震が起こるとできなくなることは何か？」を皆で考えました。例えば「水道が使えなくなるとできなくなること」や、「ガスや電気が使えなくなるとできなくなること」などについて皆で考え、「料理や洗濯」「お風呂や歯みがき」など次々と声が上がリ、大きな地震や災害が起こると、食べることや学校へ行くことなど、いつもできている多くのことができなくなってしまうことなどを学習しました。

最後に地震が起こった時には、頭を守ることが大切ということで「だんご虫のポーズ」の練習を行い、家にいるときはお父さんやお母さん、学校にいる時は先生の言うことをよく聞くこと、慌てず行動することを約束しました。

防災学習終了後には、1年生の代表者数名に出てきてもらい飲料水の贈呈式を行いました。

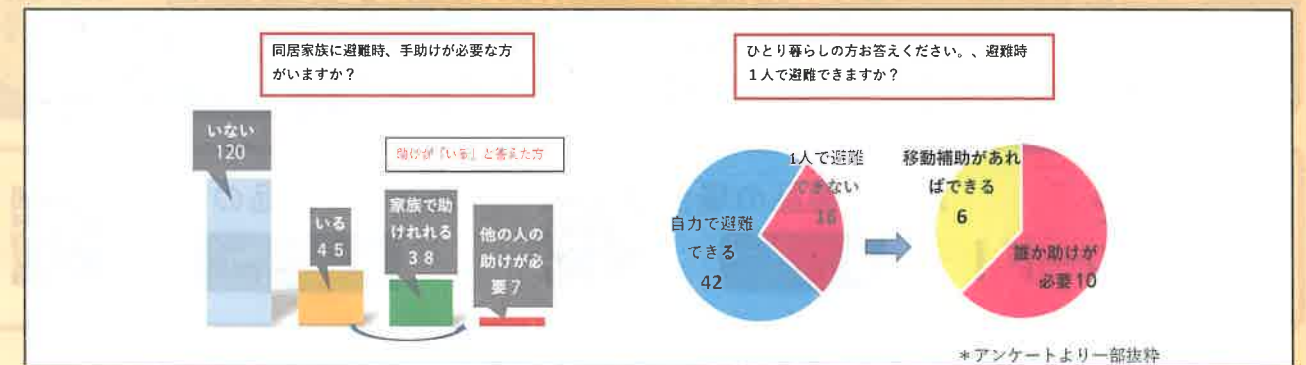


## 同和地区 「住民同士の顔の見える関係づくり」を目指して 同和地区自主防災隊 隊長 後藤 洋介

同和地区は、四日市市で高齢化率が2番目（37.6%）に高い地区です。（四日市市の平均は25.4%）高齢者は若い世代と違って、身動きがとりにくく行動範囲が制限されてしまいがちです。特にひとり暮らしの高齢者や高齢者夫婦世帯に対して地域をあげて支えあう必要があります。そこで、コロナ禍においておこなえる活動として、令和2年度は、自然災害に備え、高齢化が進む同和地区として「いかに命を守るか」を今一度考える機会とするため、自治会加入世帯に対し防災アンケートをおこないました。住民の皆さんのご協力のおかげで、貴重な意見がたくさん集まりました。（回答率87.1%）

今回のアンケートを通して、地区としての課題がみつかりました。そこで、令和3年度はアンケートをもとにどう対応するかを考え、訓練・出前講座などをおこない今後の取り組みに生かしていきたいと思っています。

また、アンケートを取りまとめ「防災だより」として各戸配布しました。



## コロナ禍の防災活動 令和3年6月 日永地区自主防災協議会 会長 松岡 武夫

新型コロナウイルス感染症の発生と感染拡大は日永地区の防災活動にとっても大きな障害でした。予定した防災訓練、学習会、文化祭での防災展示、防災視察研修はいずれも中止を余儀なくされました。そこで、令和2年度の取り組みとして、これまで未整理だったマニュアル等をまとめ、発行することにしました。

これまでの防災学習会等で説明してきた内容を整理し、地区内住民向けの手引きとして「日永の防災」を作成、全戸に配布しました。また、災害時にトイレに困った場合の知恵として「段ボール簡易トイレの作り方」のパンフレットも発行して防災担当者に配布しました。その内容は日永地区のホームページにも掲載しています。丁寧な説明に心掛けました。

日永地区では、大災害時に指定避難所の開設・運営を支援する役割を担う避難所支援委員会を設けています。各自治会2名を構成メンバーとして今年度は合計五十数名です。この避難所支援委員の任務を解説した「避難所支援委員マニュアル」を発行しました。また、避難所運営を詳しく述べた「避難所運営マニュアル」も作成しました。今後、訓練の中でこれらを活用し、経験を重ねることでマニュアルの内容をさらに充実させていきたいと考えています。

